



校長室だより

遅刻したわが子に対して・・・

冬休みで生活リズムが乱れるというのはよく言われることですが、我が家でも中3の下の娘が早く起きないということが起こっていました。朝食もあまりとらずに、急いで学校へ行く状態が続いていました。そしてついに学校に遅刻をしてしまいました。なるべくしてなった結果でした。私たち父母は仕事に出かける関係もあり7時過ぎには家を出ているのでその後のことは娘たちに任せることになります。ですから本人に自覚してもらう必要があります。そこで本人がこれからどうしたいか？など聴きながら、話し合いをしました。そして「6時15分には起きる」ということになりました。次の日から毅然とした態度で6時15分に布団をひっぺがして起こしています。もちろん、そのおかげで余裕をもった時間を過ごすことができています。家族で朝食を囲むことで、孤食だったそれまでと違い会話が生まれてきました。

親として生活リズムを作る、当たり前前の方が大切だったと反省しています。

「登校しぶり」で悩んでいる多くの保護者の方がいます

不登校が全国的に増えています。千代田小学校でも「学校に行きたくない」と子どもに言われて不安になっている保護者の方が多いです。行きたくない理由、そのための手立て、そして保護者の方の考え方も千差万別ですが、やってみたらどうかという手立てを少しだけ紹介します。

生活リズムをつくる

朝、早く起きて家族みんなで朝食を食べることを目指しましょう。学校に行かなくなるとどうしてもリズムが崩れてきます。朝、起きることで良いリズムが作られ、登校の有無にかかわらず充実した生活を送ることができます。

デジタル機器を制限する

学校に行かない場合にはスマホ、ゲーム、TVなどのデジタル機器をいっさい禁止します。おそらく子どもからは反発されることが予想されます。中には暴れだす子どももいるかもしれません。しかし、一度決めたルールは毅然として守らせるべきで、その覚悟が必要です。制限をすることで登校するようになったという事例が多くあります。デジタルを制限されることで「ひま」が作られます。ひまになると子どもたちは何をしようか考え出します。登校しなくても自分で何かをつくったり、勉強したりと自主的に動き出すという子どもが多いようです。

ルールを子どもと話し合って決める

現状を確認しながら、子どもの意見を聴きながらルールを決めていきたいです。意見があまり出ない場合は、「あなたのために〇〇する」「親として考えたから、それでいい？」と問いかけます。合意が取れたら朝ごはんについても、デジタルの制限についてもルールを曲げずにやり切ります。

子どもとの対話を増やす

大人はどうしても自分の聞きたいことを聞いてしまうので留意しながら子どもの意見を多く聞きます。デジタルを制限するとやる事がなくなるので、アナログのゲームをすることになります。トランプ、パズル、ボードゲーム、などが考えられます。保護者の方といっしょにやることで対話が生まれます。食事をともにすることでさらに対話は増えます。